

# かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 96 号

平成10年 9月16日

編集 旭川医科大学  
 厚生補導委員会  
 発行 旭川医科大学教務部学生課



(写真撮影 医事課栄養管理室 土田由起夫)

初冠雪の旭岳

基礎看護学講座教授に就任して…岩元 純… 2	第45回北海道地区大学体育大会……………10
“私の時代” ……………木村 昭治… 3	第41回東日本医科学生総合体育大会(夏季部門) ……………11
医学医療史教育の充実を模索して ……………近藤 均… 4	平成10年度後期分授業料免除及び延納・分納に ついて……………11
憧れの旭川……………伊藤 亮… 5	学生教育研究災害傷害保険の加入について…………11
旭川医科大学に入学して……………中島 翠… 6	平成10年度日本育英会奨学生の募集2次に ついて……………11
旭川医科大学に入学して……………村上 正和… 6	外国人留学生夏季オリエンテーション実施 される……………12
助教授紹介……………7	教官の異動……………12
講師紹介……………8	窓 外……………松谷 洋子…12
研究室紹介……………生理学第二講座… 9	
卒業生の動向……………10	



## 基礎看護学講座教授に就任して

基礎看護学講座 教授 岩元 純

かつて現場の医者であった身としては、看護学校の学生さん達の教育にほんの断片的に関わったことがあったが、大学の場において、看護教育に本格的に携わるようになるとは想像もしなかった。しかし、看護学科に転任する一年前から看護学科への講義がスタートし、看護科の専任の教官の方々と接する機会も増えて、大学での看護教育を少しずつ理解することになった。思うに、看護教育も医学教育も、学校で教えることのできることは限られているという意味では類似しており、それゆえ、病棟実習や卒後教育が極めて重要である。私事にわたって恐縮だが、私自身、学生時代に2年間の外来病棟実習を課せられ、また研修医の時は、内科、外科、小児科などのローテーションを行った経験があることから、第一線の施設における実習と、現場の優れたスタッフから受ける直接的な教育が、後日、みずからの職業人としての技量やモラルの確立の基礎となることが多いと確信している。以下、私の思い出に少しお付き合い願いたい。

ローテーションの開始の最初の週は、看護実習であったが、このことは、病棟に初めて告げられた。私は未熟児新生児病棟で、一週間の間に、日勤を3回、準夜と深夜をそれぞれ一回ずつ課せられた。業務の内容は、保育器内の清拭、児の着替え、フィーディング、オムツ交換、体重の計量、沐浴、輸液の調製、観察と看護記録の記載など、思い出だけでも楽しい気分になる。もっとも、やっている時は、婦長さんが鬼に見えたものだった。特に、フィーディングは、やってみると案外時間がかかり、コットにいる軽症の児10人程にミルクを飲ませるのに、1時間ほどかかってしまうこともあった。しかし、注意深く観察することと、数を多くこなしてくることによって、ベビーの個性が次第にわかってくると同時に、要領が良くなって、哺乳時間が次第に短縮していった。たとえ5回の勤務でも、その間に、のべ数百回のフィーディングを行うわけであるから、

うまくならないほうがおかしいのである。また、看護婦さん達も、駆け出しの研修医に難しい看護の仕事をやらせるよりは、乳母の役目をやらせる方が楽だったに違いない。しかし、この作業は大変興味深い効果があり、患児を抱いてフィーディングをしていると、おぼろげながら母性に近い感情と児に対するcompassionが自分の中に芽生えてくるのがわかった。また、看護の仕事の多様性と重要さを教えられた。

このように、経験から学ぶskillの場合、体を通してしか学べないことが多い。今だから分かるが、このような経験による学習を可能にするのが、基礎的な知識や理解力であり、基礎系の専門科目や、広い意味でのgeneral artsによって達成されるものである。私は医学部の学生諸君に、職業人として一生を楽しむために勉学に励むようにアドバイスしてきたが、白らの職業を愛して、誇りを持って楽しむとなると、やはり研鑽が必要になってくる。その研鑽のための前提としても基礎学力が必要であり、私などは、学生諸君が基礎学力を効率よく身に付けるよう、いつも願っている。特に、私の専門である生理学は医学全般の中でも、もっとも基礎的なものの一つであり、守備範囲も広く、学生にとっては難解なものである。特に理解しやすい教育を心がけるよう努めている。さて、私たちの行っている医学・看護学教育という職業の魅力は、学生を人の役に立つ人材に育て上げるという明確な目標を持っていることではないだろうか。有為の人を作ることに貢献できるならば、それは、誇るべき一生の仕事であると思うことができる。つまり、私は学生諸君のお陰で誇るべき人生を送らせて貰っているわけである。誠に、喜ばしくもありがたい限りである。



## “私の時代”

基礎看護学講座 教授 木村 昭 治

学生諸氏にとって、自分達が講義、実習を受けている人物がどのような輩かは関心事の一つであろうと想像するので、この場をかりて自己紹介をしたいと思う。

私は、今ではもう旧き良き年号になってしまった昭和の24年に和歌山県に生まれ、地元の医科大学を卒業する迄その地で過ごした。私の学生時代は、未だ学生運動の残り火が燃え盛っている頃で、学生間にもイデオロギー及び感情的対立が存在していた。時代は云々ゆるモーレッツ社員（もう死語になったが当時のはやりの言葉の一つ）全盛期で、とにかく経済最優先で国内外を問わず商社マンが費やしたエネルギーは今とは比較にならない位だった。彼らのおかげで日本は確かに経済的に飛躍的發展を遂げたが、犠牲になった部分も多数あって、色々な問題も生じてきていた。同時に世界では東西対立が厳然と存在していた。そういう時代にあって我々学生はその持て余すエネルギーを閉塞感打破に向けたのであった。材料は何でも良かった。どんな小さな事も対立の原因になった。私は殆んどノンポリとして過ごしたが、この運動によりその後の生き方に影響を受けなかった者は教師も含めて殆んどいなかったと思う。大学では大巾なカリキュラム改革があり学生の自主的活動を促す目的で4年次の3ヶ月は基礎講座に行くことになった。私は元々細胞分化に興味があって当時唯一最も良く整理されていた血液の分化に関心があった。基礎系の教室で血液を扱っていた所はなく、政治的配慮で新しくできた免疫研究室に入れてもらった。ここで初めてリンパ球に接することになったが、T細胞、B細胞の概念はまだなく、胸腺摘出の皮膚移植への影響をマウスを使ってin vitro, in vivoで調べた。生後すぐのマウスの胸腺を摘出するのが仲間うまくいかずハサミで切除しないでパスツールピペットを使用し吸引する方法を見つける迄かなりの時間を費やしたと思う。臨床系の科目が始まるに及んでそれ以後免疫学をもっと深く勉強するという事はなかった。しかし6年の冬に「臨床科学」誌で本学第二病理初代教授に後になられた故板倉克明先生

（当時北大病理助教授）のヒトのMHCと疾患感受性についての総説を読み深い感銘を覚え自分も彼らの研究に参加したいと思いつ様になった。殆んど臨床医への興味はなく、国試のための勉強を少し、あとは免疫関係の本、と言っても免疫学は未だ発展途上の学問であり情報は限られていたのだが、少し読み分らないことの多い領域であることはわかったつもりになっていた。この高ぶった気持ちで相沢教授に手紙を書き大学院に入れてもらった。しかしながらこの純粋な科学への探究心は世間の甘い誘惑に浸食され立派な学生とは成らなかった。卒業論文は片桐教授に御指導いただき、卒業後は本学の第二病理に入れてもらいマウスの免疫遺伝学を学ぶ事になった。学生時代の胸腺摘出の記憶が蘇ったがもうあの頃のは学問と呼べない程急激な進歩を遂げていた。少し慣れた頃留学の話がで、翌年に渡米、マウスの免疫遺伝学が面白く本当に一生懸命仕事をした。自分自身のデータで自分が武装したことで自信過剰になったこともあった。ニューヨークにいたせいもあり、適度の緊張と先の精神的亢庸により精神状態は常に操で落ち込むことは全くなかった。一時は永住を希望しグリーンカードも取得したが自分の興味のみ家族に押しつけることは14年後には不可能になった。こうして又、第二病理にお世話になることになり学生諸君と接する事になった。こう書いてくると順風満帆に見えるが海外での失敗談は枚挙にいとまがない位である。進路の決定はいつも難しく、そもそも諸君がどういう理由で本校を希望したかあいまいで、ましてやどの分野に進むかは悩む所だと思う。個々人により種々の条件の優先順位の並べ方が違うため他人がとやかく云うべきではないが、自分が興味があるか否かは最も重要な決定要因の1つと思う。私はその様に生きてきたが反論もあろう。唯次の点は真理であろうと思う。

＝人生は二度生きられない＝



## 医学医療史教育の充実を模索して

歴史教授 近藤 均

原田一典先生の御退官後、本学の歴史担当教官は4年間空席になっていましたが、此の度、4月1日付で私が後任の榮に浴しました。原田先生は在任中、御専門の北海道史関係の資料のみならず、誰もが末永く活用できるレファレンスの整備・充実にも尽力されました。明治大正期の法令を網羅した『法令全書』や大槻文彦の畢生の労作『大言海』は、この半年間、私もしばしば参照して多大の恩恵を受けてきました。私も先生を見習い、公費による研究用図書の購入にあたっては、教官・学生が末永く活用できるものを選んでいく所存です。

私の専門は医学医療史です。残念ながら本学には、当該分野に関しては蔵書がほとんどありません。そこで差し当たり、当教室の予算と私費で、早急に関連基本図書の整備を図ることにしました。既に『癌の歴史』『心臓外科の歴史』『梅毒の歴史』『エイズの歴史』『出産と生殖観の歴史』『中国医学思想史』『痛みの文化史』など、内外の一流研究者の手になる定評ある文献を多数注文しました。もちろん、読みたい方々には貸出しも致します。

さて、私に「教授」という肩書が冠されて早くも半年たちました。しかし、まだ面映ゆい感じが抜けません。教授とは「教え授ける」と書きますが、じつは、私が授業に臨んで心掛けているのは、「教え過ぎない」ということです（もっとも、詳しく教授したくても勉強不足のため不可能なときも多々あります）。必要最小限のこのみを講義し、あとは学生各自の興味・関心に応じた発展的な自学自習に任せる、というのが私の基本方針です。

学生が自学自習の方向性を見出すきっかけとなるような教授を心掛け、そのうえで、さらに学生ごとに、書籍紹介など、ささやかなアドバイスができればと考えています。そんなわけで私としては、むしろ、授業外での学生との交流を大切にしたいと思っています。

授業内容で心掛けていることは、決して骨董趣味

に陥らず、なるべく学生の将来に役立ちそうな知識を幅広く盛り込むことです。いわば、「虚学」ではなく「実学」としての歴史学を目指しています。授業を通じて、専門教科へのモチベーションがいささかでも高まることになれば幸いです。授業の展開に当たっては、学生はもちろん、教官各位のニーズをも十分踏まえ、臨機応変かつ柔軟に対処していきたいと思っておりますので、御意見・御要望をどしどしお寄せください。

私の尊敬する或る医史学界の重鎮は、著書の中で、医学医療史の学習効果を以下の5点に要約されています。—— ①現在の医学医療に対する理解が深まる。②現在の医学医療に対する「病識」が持てる。③集学的思考と新しい概念（コンセプト）の創造とが可能になる。④文献に対する読み込みが深まる。⑤正確な記録の作成と保存の重要性を強く認識できる。—— 私の授業がこれらの点にどれほど寄与しているか、甚だ心許ない限りですが、ともあれ、これらを目標に、今後、本学の医学医療史教育を充実させていく所存です。

教職員の方々とはもちろんですが、学生の皆さんとも末永いお付き合いができればと願っています。今のところ私が授業で接するのは1、2年生ですが、上級学年になっても時折は私の部屋を訪ねてくだされば幸いです（ちなみに来年度は、既に学生有志から要望の出ている某サークルの設立に協力し、その顧問も務めて、学生との交流を更に深めていきたいと思っています）。

むしろ、研究者の端くれとして、オリジナリティーの認められるような研究も、鋭意すすめていく所存です（ちなみに目下の私の専門研究は、江戸時代中期の医師三浦梅園の自筆稿本（国指定重要文化財）の解説や、16世紀の解剖学者ウェサリウスの主著の書誌学的研究などですが、ここでは触れません）。よろしく御支援ください。



## 憧れの旭川

寄生虫学講座 教授 伊藤 亮

寄生虫学講座の初代教授、久津見晴彦名誉教授の後任として、4年間の空席の後、本年6月1日付で着任いたしました。これまで勤務していた、蒸し風呂的、酷暑の地、岐阜から爽やかな北の大地に移り住み、北海道での最初の夏も終わろうとしております。学生時代に2度登った憧れの大雪の嶺々、四季折々の大自然の変化を肌で感じられる程間近に眺めることができる毎日という、最高に贅沢な自然環境の中で、教室再建をさせていただくことの責任と喜びを感じている毎日です。現在は8月後半に千葉幕張メッセで開催される国際寄生虫学会での囊虫症シンポジウムでの講演、座長、それに引き続き、中国新疆ウイグル自治区ウルムチの新疆医学院でヨーロッパ連合の後援によるエキノコックス症国際シンポジウムでの講演、英・仏・中・日合同のエキノコックス症調査と、その準備に追われ、夏休み無しの毎日です。しかし現在、教室員をあげて、てんてこまいしていることは、この原稿締切り直後8月17日に、映画「アウトブレイク」の舞台になったアメリカ国立疾病情報センターの友人による寄生虫学講座の第1回目の外国人研究者の講演会、その翌日から大雪山で1泊の研究会の準備です。アメリカとデンマークから旭川に来られる旧友達とエキノコックス症の研究をしている教室関係者とが泊まりがけで、遺伝子から疫学までの各自の最新の未発表の研究データを持ち寄り、論文作成、今後の共同研究の方向性を模索することを目的としております。5人の研究者の参加による最低5編の論文がほぼ完成することになります。外国人研究者の来室が講座の今後の研究体勢に良い意味で大きな刺激になることを期待し、毎年恒例の教室行事にしたいと夢見ております。これまで1994年度から科学研究費、国際学術（共同研究）助成を受け、又学術振興会から外国人研究者受け入れ要請を受け、アメリカ、メキシコ、ブラジル、イギリス、デンマーク、ヨルダン、インド、インドネシア、ネパール、中国、韓国から研究者を受け入れています。「外国人研究者が日本に来られたら、

旭川にだけはどうしても来てみたいと言わしめるだけの魅力ある研究室にし、毎年、大雪山で地酒、地ビールを飲み交わしながら研究談義、人生談義ができる活発な教室にしたい！、「国際的に通用する共通語としてのオリジナリティの高い研究の推進が講座関係研究者の必要条件という共通認識に基づいて一丸となって研究に励みたい！」と考えております。

さて、日本の大学教育における一般教養教育の充実化が叫ばれている中で、医系大学においては一般教養教育の軽視傾向が強く見受けられます。このことは、これまでの全人格的医者の養成に逆行するように思えてなりません。また、大学の活性化の為には他大学のコピー的な体制の模倣ではなく、大学の理念に基づくオリジナリティの確立が最も重要、この日本一恵まれた大自然に相応しいオリジナリティとは何なのか？等々考えあぐねております。

憧れの大雪山の懐に入って、このような思考をするのが一番と、大自然の中に出かける努力をしておりますが、実際には大自然の中での楽しみ方の模索に終始しております。ニセイチャロマップ川での最初の釣りで30センチのオシヨロコマが上がり、今夏最後の大雪湖上流ヤンベタップ川での釣りで40センチのアメマスが上がりました。上記のタイムスケジュールから釣りどころではなかったと反省してありますが、カムイ（ヒグマ）との出会いを不安に思いつつも、内地産よりも大きな道産魚の力強い引きを楽しんで、実物を手にしたからこそ夏休み返上の毎日に耐えられると勝手な弁解をしながらスライド作成に追われております。この超過密スケジュールに夏休みも取らずに協力してくれた教室員の皆様に感謝しております。9月後半に1ヶ月ぶりに戻ってきた時、大雪山の秋がどのように映るか楽しみです。また旭川の冬に対しても格別の期待と不安とがあります。深々と降る粉雪を眺めながら好きなブラムス、いやチャイコフスキーでも聴くのも悪くないなと！皆様、よろしく御指導ください。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 中島 翠



旭川医大に入学してもう3ヶ月が過ぎようとしています。入学したばかりの頃は今まで触れた事のなかった分野や膨大な量の知識にどう取り組めばよいの

か惑う事もありました。今までとは違い授業だけで理解できるものが少なく自分が本当に理解するためには自分で行動を起さなければなりません。与えられる知識の量の多さに思わず尻込みしそうになる時もありますが可能な限り積極的、攻撃的に学業に取り組んでいきたいと思っています。

医大というのは本当に様々な経験と個性を持った人々が集まっている所でもあります。自分の視点を少し変えてみたり今まで経験した事のない分野に飛び込んでみると存在感溢れるとても魅力的な人々に出会えます。私自身、学校生活に慣れて来た頃少し落ちついて地に足をつけて周りを見回してみようと

思い、少し立ち止まって深呼吸をしてみました。するとそれまで気づかなかった物事の重要性や人の存在が見えてきました。何が大切で何を掴まなければならないのか、ただ漠然と毎日を過ごすのではなく、それらをいつも感じながら日々を過ごしていくためには常に自分が何を感じ何を考え、そしてどう変化しているのかを意識し続ける必要があると思います。

将来どの分野に進むにしても信頼され、どのような患者さんであっても支えてあげられる医師にならなければならないと思います。医師としての特別な技術、知識を最大限発揮する事ももちろん必要ですが患者さんと共に病気に立ち向かうために患者さんの心と触れ合う事ができなければ医師として不適切ではないでしょうか。

私は将来、医師としてそして人間として患者さんを支えてあげられる医師になりたいと思っています。そのためにもこの旭川医大を可能な限り努力を重ね、人間的に奥行きと深みのある医師になるための経験の場として6年間を過ごしていきたいと願っています。

## 旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 村上 正和  
これからの4年間



旭川医科大学に入学して、旭川に来て努滞の4ヶ月が過ぎた。高校3年間と浪人1年間、“勉強”という言葉のを忘れ遊びほうけた自分がこの旭川医大で看護

を学ぶことができるのは、奇跡ともいえることで、今自分は神様を信じてもいいとも思える気持ちだ。

この4ヶ月、たった4ヶ月にいろいろなことがあった。入学式には自転車に乗ったまま胴上げされ、入学してしばらくは先輩方のアルコールによる手厚い(手荒い?)歓迎、慣れない一人暮らしで金がなく米ばかり食べる生活……等々。あげ出したらきりが無いほど。でもそんな中で友人や先輩方と出会えたことがこの大学生活の一番の収穫ではないだろうか。

前へ進む道は違っても同じ目的を持った仲間達、互いに磨き合い、助け合える仲間達を見つけた。これからもこんな僕をよろしくお願いします。

さて次は柄にもなく真面目な話をしてみよう。

たまに自分は看護の道を選んだ自分に疑問を持つことがある。“何故看護なのか” “看護とはどんなものなのか” そのことに自分なりの答えは持っている、それが本当に合っていることなのか、心の奥底から思っていることなのかと言われれば自信がない。でも実際、今自分はここにいる。この大学に今立っている。もうこうなったら自分が信じた道を進むしかないと思っている。「やるときはやる。やることはやる。やれるだけやる。」これは自分の高校、そして自分自身の座右の銘である。この言葉を胸に日々切磋琢磨し、信頼できる仲間達と、自分にプラスになる楽しい大学生活、そして自分に自信を持てる確固たる人生設計をこの大学で築いていきたい。

## 助 教 授 紹 介



氏名 沖 潤 一  
所属 小児科学講座  
旭川医科大学  
出身大学 旭川医科大学  
ひと言 小児科学は、治療は勿論のこと、発達段階にあるヒトにおける疾病が、その後の人生にどのような影響を及ぼすのかを解明する学問です。遺伝子レ

ベルから親の心理に至る幅広い知識が必要で、対象となる患者さんも、超低出生体重児、骨髄移植も必要となる血液・悪性腫瘍など多岐に渡ります。最先端の治療・診断を行いながら、一人の独立したヒトとして包括的に子供を診ることが、小児科学の真髄でしょう。この面白さを、講義や実習を通して学生さんに伝えていきたいと思っています。



氏名 棟 方 隆  
所属 第二外科  
出身大学 旭川医科大学  
ひと言 臨床では上部消化管（胃や食道）の外科治療を中心に仕事をしております。学生教育や研修医教育にも先輩として力を入れているつもりですが、時に入れ込みすぎて空振りも目立ちます。休みの日には川で魚に遊んでもらったり、蕎麦を打ったりしています。

も先輩として力を入れているつもりですが、時に入れ込みすぎて空振りも目立ちます。休みの日には川で魚に遊んでもらったり、蕎麦を打ったりしています。



氏名 大 森 行 雄  
所属 第一解剖学講座  
出身大学 帯畜大獣医学院  
ひと言 これまでは形態屋として固定した組織、細胞の形態美を追求してきました

が、これからは形態屋が苦手とする生きている組織や細胞で機能美も追求してみたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



氏名 橋 本 眞 明  
所属 生理学第一講座  
出身大学 北海道大学理学部  
ひと言 大分の夏の暑さに耐え切れず、学生時代は札幌で涼しく過ごしたものの、

最初の赴任地は山梨医大。暑い寒いのは典型的の盆地型気候でした。旭川も同型のようなのですが、冬の寒さは、最近始めた冬眠・超低体温の研究にもってこいの気候でしょうか？



氏名 石 川 一 志  
所属 基礎看護学講座  
出身大学 北海道大学大学院  
ひと言 吉田兼好が「徒然草」の中で「かつお」を下魚としたのに対して、江戸庶民が「初がつおなに兼好

が知るものか」という川柳で反発したそうですが、「看護学なに形態学者が知るものか」といわれないようにしたいと思います。看護学科の教育と研究活動のなかで私なりの個性が出せればいいと考えています。



氏名 松 浦 和 代  
所属 臨床看護学講座  
出身大学 千葉大学大学院  
ひと言 専門分野は小児看護学です。特に、先天性疾患をもつ子ども達とその両親

へのケアに関心をもっています。救命された子ども達が、その後いくつもの困難を乗り越えてたくましく成長していけるよう支援したいと考えています。



氏名 佐 藤 雅 子  
所属 地域保健看護学講座  
出身大学 東洋大学大学院  
ひと言 20年近く北海道を離れ、本年3月まで東京の東邦大学医療短期大学に勤務しておりました。近年、地域看護学の分野では、

高水準ケアの効率的提供のため、大学院レベルの教育を必要とする専門看護師認定制度が設置されています。こうした状況をふまえ、本学では自立的で創造的な実践活動のできる看護婦（士）の育成に努めたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



氏名 高 橋 康 二  
所属 放射線部  
出身大学 旭川医科大学  
ひと言 専門は胸腹部の画像診断、血管造影およびIVR。

画像診断学を通じて臨床に貢献すること、有能な画像診断医を育成することを目標にしています。趣味はサッカー、少年団の指導を手伝い自らもしぶとく現役を続けています。

## 講師紹介



氏名 山本浩史  
 所属 第一外科  
 出身大学 旭川医科大学  
 ひと言 近年、成人病としての循環器疾患が増加傾向にあり、移植も含めて心臓血管外科学に対する社会からの要請は高まりつつあります。私はまだ未熟な心臓血管外科医ですが、第一外科の場を借りて、診療、研究、教育を通じ大きく社会に貢献できればと思います。洒落も冗談も言えない退屈な性格ですが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



氏名 柿坂明俊  
 所属 第二外科  
 出身大学 埼玉医科大学  
 ひと言 診療は下部消化管（腸疾患および肛門疾患）を担当しております。今後も増加傾向にあるこの領域の早期診断及び根治治療をめざしたいと思います。医局においては医局長業務を任せられ、医局員及び関連病院の先生方との連絡、交渉などの仕事をこなしながら日々過ごしています。



氏名 平義樹  
 所属 解剖学第二講座  
 出身大学 旭川医科大学  
 ひと言 基礎研究に惹かれて解剖学教室の門を叩き、以来松果体を覗つづけて参りました。解剖学教室という立場柄、学生を指導する機会も多いのですが、浅学のためか教える事の難しさを痛感しております。今後ともよろしくお願ひいたします。



氏名 佐藤啓介  
 所属 病理学第二  
 出身大学 旭川医科大学大学院  
 ひと言 免疫疾患におけるT細胞応答や抗原内責任部位について解析中です。疾患発症や病態形成には多くの要因が複雑に関与しており、その一過程でも極めてみたいというのが自分の夢です。学生には、病理病態解明のプロセスの楽しさを知ってもらいたいと思っています。



氏名 武田直樹  
 所属 整形外科  
 出身大学 北海道大学  
 ひと言 骨軟部腫瘍と脊椎外科を担当しています。原発性骨軟部腫瘍は頻度の低いものですが、転移性の骨腫瘍は頻度も高く、そのマネジメントでは各科の先生のお役にたてると思いますので、よろしくお願ひいたします。脊椎外科でもやはり転移性腫瘍に対して、手術治療と保存療法の間を占めるless invasiveな治療法の確立を目指していきたいと思っています。



氏名 大平基之  
 所属 第三内科  
 出身大学 旭川医科大学  
 ひと言 第三内科入局以来、肝疾患全般の研究、特に原発性肝細胞癌の診断と内科的治療を行ってきました。また高後教授着任以降はそれまであまり行われていなかったアルコール性臓器障害の研究も行っています。平成10年10月からは医局長になりますので、医局全体をみすえて、頑張りたいと思います。



氏名 程塚明  
 所属 脳神経外科  
 出身大学 旭川医科大学  
 ひと言 私がまだ中学生の頃、恩師の母上がクモ膜下出血で倒れ、文字どおり死線を彷徨っておられました。ところが、1か月後、何とその母上が元気に現われて、一同ビックリしました。これが私と脳神経外科との最初の出会いです。それ以来、脳神経外科医を目指して高校・大学と進み、卒業早や10数年になりますが、あの時の驚きと感動は忘れられません。脳の世紀などともてはやされておりますが、未知の分野は多く、地平線はまだまだ遠い感があります。今後も一歩ずつ着実に進んでいきたいと考えております。



氏名 武井明  
 所属 保健管理センター  
 出身大学 旭川医科大学大学院  
 ひと言 精神科医としてこれまで不登校や摂食障害などを呈する思春期の子どもの治療に関わり、子どもの内面を理解することの難しさや、親や教師を支えることの重要性を実感した。保健管理センターでは、学生の良き相談相手となって、学生が充実した大学生活を送れるように援助していきたい。

## 講師紹介



氏名 中井啓文  
所属 脳神経外科学講座  
出身大学 旭川医科大学  
ひと言 4月より、6年ぶりにまた大学にお世話になっています。卒後19年を振り返ると、研修医、実験研究、一級病院と、それなりに没頭出来たように思います。大学は教育、診療、研究いずれも疎かに出来ない責務がありますが、患者さんの痛みを理解出来る臨床医を育てる上で、いくらかでも力になればと思っています。宜しくお願い致します。

研究、一級病院と、それなりに没頭出来たように思います。大学は教育、診療、研究いずれも疎かに出来ない責務がありますが、患者さんの痛みを理解出来る臨床医を育てる上で、いくらかでも力になればと思っています。宜しくお願い致します。



氏名 秋葉純  
所属 眼科  
出身大学 旭川医科大学  
ひと言 4月から大学に戻りました。大学の教官は、教育、臨床、研究のすべてをこなすスーパーマンでなければならず、凡人にはなかなか大変なポジションです。眼科は手術ビデオや眼底写真などビジュアルな素材が多いので、できるだけ視覚に訴える講義をしたいと思っています。

なかなか大変なポジションです。眼科は手術ビデオや眼底写真などビジュアルな素材が多いので、できるだけ視覚に訴える講義をしたいと思っています。



氏名 加藤千津子  
所属 臨床看護学講座  
出身大学 旭川大学  
ひと言 3月まで附属病院で、看護（情報）システムの構築を担当していました。実践の科学としての看護を、臨地実習や演習を通して、学生とともに考えて行きたいと思っています。

実践の科学としての看護を、臨地実習や演習を通して、学生とともに考えて行きたいと思っています。



氏名 小野寺一彦  
所属 第二外科  
出身大学 旭川医科大学  
ひと言 現在、臨床では胆・膵を担当し、研究では肝細胞移植、ラット肝癌モデルを使った多発癌治療、免疫寛容のメカニズムなどを主題としています。

医療とサイエンスにおける情報開示の波が、大学の生き残りにおける競争原理として働き、教育のバランスをも変貌させていく時代と認識しています。どうぞ宜しくお願いします。

## 研究室紹介

### 生理学第二講座 助手 幅口 竜也

現在、本講座は坂本尚志教授以下、高草木薫講師、幅口竜也・斉藤和也・杉本純子助手と野村学研究生、長岡泰司大学院生、そして秘書の佐々木恵子さんの計8名で活動している。本年度より、金沢（耳鼻科）から斉藤助手、東京医科歯科（小児科）から杉本助手が加わり、いっそう活気あふれる教室となった。

本講座は神経生理学についての教室を担当し、研究においても神経生理、特に運動の発現に関する研究を行っている。坂本教授は現在は主に、発声の発現に関する研究を行っており、日常生活においても自ら研究テーマを実践されている。また高草木講師は、筋緊張の制御系（基底核疾患の病態）の研究を行っているが、長年の肩こりに悩まされ、よく助手部屋に来ては、肩もみをご希望になる（肩もみ係りは、大抵、ラクビー部出身の斉藤助手か若い長岡院生である）。幅口は筋緊張の制御系に関する研究を

高草木講師と共に、また一見無口で恐そうな斉藤助手（自称、お茶目なスキンヘッド）は嚙下に関する研究を坂本教授と共に展開しようとしている。さらに杉本助手（他称、口爆弾娘）は睡眠と基底核に関する研究をすすめている。長岡院生（自称、サンドバック）は眼科から最新式の機械を持ち込み、眼血流に関する研究を日夜行っている。秘書の佐々木さん（元ミス美瑛という噂もあるが）は、明るく仕事も的確にこなしてくれる。

本講座に興味をお持ちの方もお持ちでない方も、お気軽にお立ち寄り下さい。



# 卒業生の動向

去る3月25日(水)に本学を卒業した100名の勤務(連絡)先は次のとおりです。

(学生課)

## 第45回北海道地区大学体育大会

第45回北海道地区大学体育大会が、北見工業大学の当番で、7月10日(金)~13日(月)まで開催された。

本学からは男子10種目、女子5種目に参加し、ソフトテニス男子準優勝・陸上競技女子、準硬式野球、バスケットボール女子、バドミントン女子がそれぞれ第3位、総合成績でも男・女とも善戦・健闘し、上位入賞を果たした。

参加種目の成績は次のとおり。

(学生課)

競技種目	優勝	準優勝	旭川医科大学
総合	男 道都大 女 旭教大	旭川大 酪農学院	第5位 第4位
陸上競技	男 学院大 女 旭教大	旭教大 北星学園	第3位 第3位
準硬式野球	北星学園	函教大	第3位
ソフトテニス	道工大	旭医大	準優勝
バスケットボール	男 道都大 女 旭教大	旭教大 札教大	第3位
バレーボール	男 旭教大 女 旭教大	道工大 釧教大	
サッカー	道都大	学院大	
卓球	男 学園北見 女 旭川大	北海学園 樽商大	
バドミントン	男 旭川大 女 苦駒澤大	樽商大 国際大	第3位
剣道	男 函館大	旭川大	
弓道	男 樽商大 女 酪農学院	学院大	第4位
ハンドボール	道都大	樽商大	



## 第41回東日本医科学生総合体育大会(夏季部門)

第41回東日本医科学生総合体育大会(夏季部門)が、北里大学医学部の主管で7月25日(土)から36大学が参加して行われた。

本学からは男女あわせて28種目に参加、ソフトテニス(男)・弓道3位、バレーボール(女)4位等上位入賞し好成績を残した。

参加種目の成績は次のとおり。(学生課)

種目	順位	優勝	準優勝	旭川医科大学
陸上競技	男	昭和大	筑波大	7位
	女	筑波大	女子医大	
準硬式野球	男	弘前大	新潟大	
	女	千葉大	山梨大	
テニス	男	日医大	福島大	
	女	山形大	群馬大	3位
ソフトテニス	男	女子医大	信州大	8位
	女	山梨医大	筑波大	13位
卓球	男	女子医大	福島県立大	10位
	女	群馬大	慈恵医大	
バレーボール	男	杏林大	山形大	4位
	女	東北大	東大	
バドミントン	男	筑波大	福島大	
	女	山形大	東医大	
サッカー	男	福島大	東京医科歯科大	
	女	秋田大	筑波大	ベスト8
バスケットボール	男	自治大	昭和大	
	女	昭和大	北北大	
柔剣	道	東北大	福島医大	3位
弓	道	東北大	福島医大	3位
空手道	男	埼玉大	聖マ大	
	女	慶応大	聖マ大	
水泳	男	慶応大	聖マ大	
	女	自治大	慈恵医大	8位
ハンドボール	男			
	女			
ゴルフ	男			
	女			

## 平成10年度 後期分授業料免除及び延納・分納について

平成10年度後期分授業料免除及び延納・分納を希望する学生で、免除基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生課専門職員(厚生担当)から必要書類を受け取り、申請期間内に提出してください。

免除基準の概要はつぎのとおりです。

\*経済的理由で授業料納入が困難であり、かつ、学力優秀と認められる場合

\*授業料納期前6ヵ月以内において学資負担者が死亡、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料納付が著しく困難であると認められる場合

なお、免除基準及び申請期間については、公用掲示板に詳しく掲示してありますのでご覧ください。

また、不明な点は、専門職員(厚生担当)にお問い合わせ願います。

## 学生教育研究災害傷害保険の加入について

本学は、学生の正課中・課外活動中・進学中及び大学の授業等、学校行事又は課外活動で施設間移動中における災害事故補償のために『学生教育研究災害傷害保険』の賛助会員大学となり下記のとおり加入受付事務等を行っております。本保険は、学生の相互共済を基本として運営されており、学生生活中の万一の場合に備え、全員加入の方針をとっております。

加入を希望する学生は学生課専門職員(厚生担当)に申し込んでください。

記

1. 受付期間 自 平成10年10月1日(木)  
至 平成10年10月30日(金)
2. 受付窓口 学生課専門職員(厚生担当)

## 平成10年度 日本育英会奨学生の募集(2次)について

日本育英会は、優秀な学生で経済的理由のため就学困難な者に学資を貸与しております。

本学では、日本育英会からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本育英会へ推薦します。

ただし、日本育英会では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

奨学生募集要項を、8月下旬に公用掲示板に掲示しますので、貸与を希望する学生は、提出期限までに所定の書類を学生課専門職員(厚生担当)に提出してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、専門職員(厚生担当)に相談してください。

## 外国人留学生夏季オリエンテーション 実施される

7月23日(木)外国人留学生夏季オリエンテーション及び交流会が実施され、在籍留学生17人中9人とその家族8人及び教職員が参加しました。

大雪窯では全員が体験陶芸教室に参加して花瓶や灰皿、徳利など思いおもいの作品に挑戦し、つま揚子で描いた自分の画にご満悦の留学生が多勢おりました。

アイヌ記念館では民族舞踊を觀賞し、中国東北部との文化の近似にも触れた解説にうなづきつつ、北海道の歴史から遠く故郷へ想いを馳せた中国人留学生もいたようです。(学生課)



## 教官の異動

昇任	H10.6.1	寄生虫学	教授	伊藤 亮
辞職	H10.6.30	第二外科	講師	加藤 和哉
昇任	H10.7.1	第二外科	講師	小野寺一彦
採用	H10.9.1	生命科学	教授	林 要喜知



## 窓 外

松谷 洋子

### 命がけのハンバーガー

私は主人の仕事の関係でナポリの南西にあるサンビートという町に住んでいたことがある。そこに小さなアメリカ人のコミュニティーがあった。週末になると片道6時間余り運転して泊まりがけでナポリにあるマクドナルドに行くのがここに住む人達の唯一の楽しみであった。私はいつもマクドナルドに"さんまの開き"があればいいのになあ...と思ったものである。昔、私の若い頃"ナポリ夢の国"という軽快な歌があったが、当時は少々どころか大変様相を異にしていた。というのはこのマクドナルドに"BUMB HTREADING (爆弾おどし)"の予告電話が入り、過去に既に事故が起きている。故郷アメリカ本場のハンバーガーに思いをはせる老若男女に"一炊の夢"のようなweekend feastを楽しませてくれるナポリのマクドナルド...。片道6時間と簡単に言うがこのアメリカンコミュニティーの人々にとっては全くnight mareのような長い長い6時間なのである。なぜなら、イタリアのシアスタの文化が作り出した交通規制がもたらすところの交通事情の難関を突破しなければナポリは夢のまた夢なのである。サンビートの町はずれからスピードクイー

ンのイタリアの国道に入る。ここは時速制限なしのイタリア街道である。ストレス100%で走行してゆくと救急車がきた。主人が徐行して車を道の横に止めると救急車の後ろに着いてきたポリスがきて、止まらず、徐行せず走れというおしかりを受けた。そして、長い長い6時間が終わろうとする頃、最後の難問が用意されていた。その日は雨であったので助手席の私も生きた心地がしない。まず、歩道を車が走っていた。3車線を4台の車が走っている。時々、側反対から車が走ってきて2台の車がクラクションを鳴らし合いお互いにゆずらず根くらべをしている。今までに経験したことのない驚くべき光景である。そうこうする内にやっと、マクドナルドである。駐車場の先客の間を縫って駐車し、主人より一歩おかれて店に入った。

私は日本食のないマクドナルドにはなんの魅力もなく、私はゆっくりと座りおもむろにメニューを見るが肉を食しない私の選択支は少なかった。その内に、入るって来る客より出て行く客のほうが多く成したが、私はまだメニューを見ていた。そこへ突然主人が来て、私の腕を引ばって外へ連れ出された。"爆弾脅し"である。そんな危険もなんのその毎週多くのアメリカ人達は"故郷の味"に心躍らせてこのナポリに来るのである。"食は心を楽しませ、体を喜ばせる"という事をこの時ほど痛感したことはない。けがをしても、もしくは死んでもいい、あのマクドナルドのハンバーガーを食べに行きたいのである。

そこには、"FOOD IS YOUR LIFE"への強い本能が動物的な衝動となって現われている。まさに、いのちがけのハンバーガーである。